# 九州廃校サミット

ONE KYUSHU

第 2 回開催レポート

# 目次

九州廃校サミットとは？　・・・・・・・・3

九州廃校学会　・・・・・・・・・・・・・・4

基調講演　・・・・・・・・・・・・・・・・5

廃校活用事例　・・・・・・・・・・・・・・6

特別セッション　・・・・・・・・・・・・・8

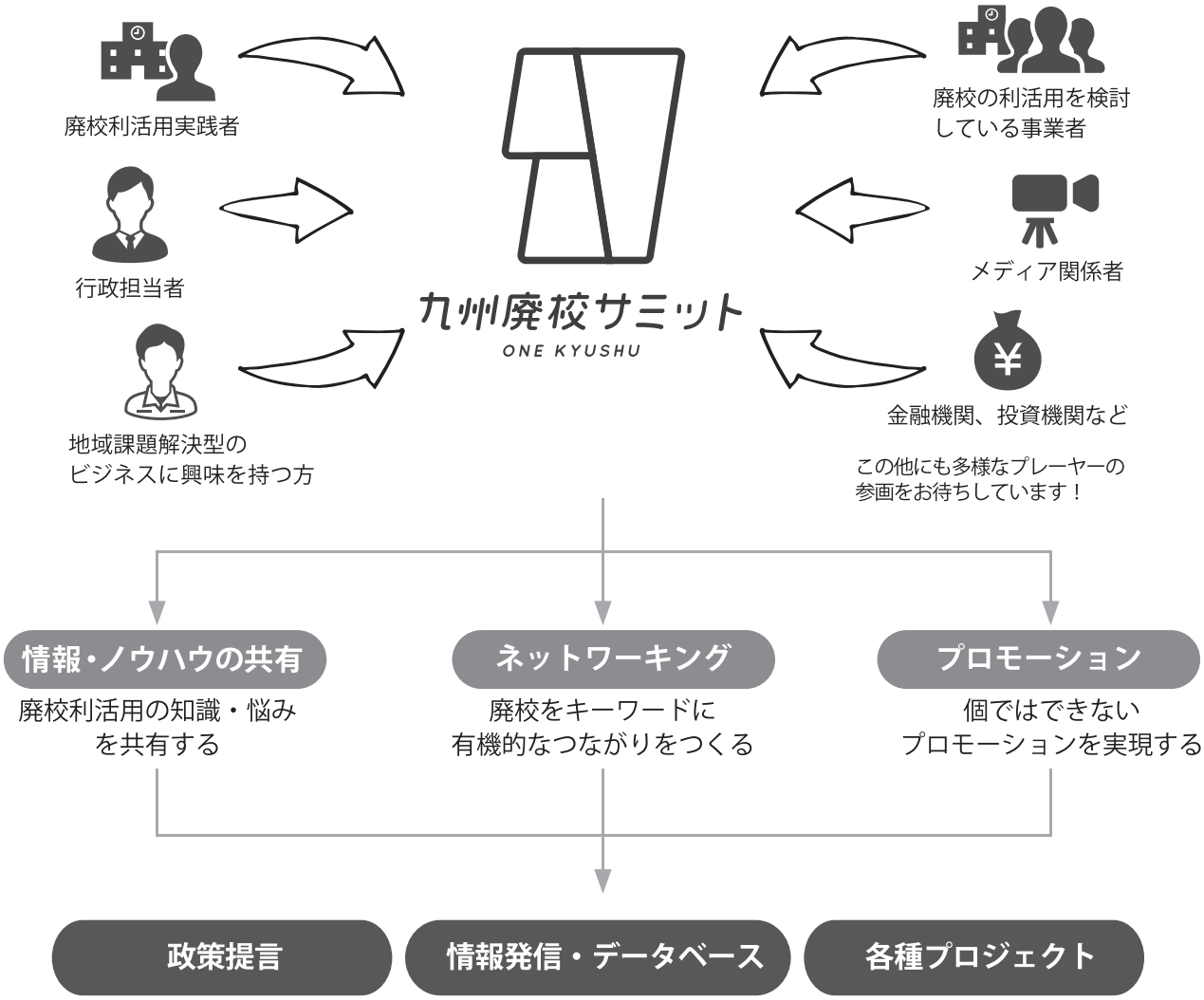
会場とのセッション　・・・・・・・・・・・9

まとめ　・・・・・・・・・・・・・・・・・10

# 九州廃校サミットとは？

## 「廃校」をキーワードに、九州の地域課題に向き合い、九州の未来を創造する。

この度、廃校利活用の課題、ビジョンやミッションを共有し、今後のあり方や地域での価値を世の中に発信するため、九州で「廃校」を利活用している事業者で「九州廃校サミット」を設立しました。「廃校」を通じた社会問題の解決という機運を醸成するためのコミュニティの形成を目指します。




### 第２回 九州廃校サミット開催概要

日時 2018 年 10 月 13 日（土）10:00 ～ 17:30
場所 いいかね Palette
（旧猪位金小学校：福岡県田川市猪国 2559）
参加者 90 名

式次第

10：00　オープニングトーク
10：20　開会宣言
10：30　「九州廃校学会」設立宣言
11：15　記者向け質疑応答
11：30　休憩
13：00　基調講演「九州廃校サミットのビジョン」石丸修平
13：45　休憩
14：00　九州廃校利活用事例プレゼンテーション（5 件、各 15 分）
プレゼンター：山口油屋福太郎の添田町工場（旧田川商業高校）樋口元信氏
プレゼンター：長崎県南島原市企画振興課主査　酒井雅広氏
プレゼンター：南島原食堂（旧長野小学校塔ノ坂分校）高橋和毅氏
プレゼンター：田舎の体験交流館さんがうら（旧一勝地第二小学校）小川聡氏
プレゼンター：きくちふるさと水源交流館（旧菊池東中学校）松崎勝己氏
プレゼンター：たかき清流館（旧佐田小学校）山邊悦弘氏
15：15　休憩
15：30　特別セッション
Bike is Life
『『廃校をつなぎ、旅をする』～廃校 × サイクルツーリズムの可能性～」
クラウドリアルティ
「不動産特化型クラウドファンディングによる遊休不動産の利活用について」
16：00　会場との対話セッション
17：10　クロージングトーク
17：30　閉会
18：00　交流会

# 学術面で活用促進へ「九州廃校学会」創設

会長　根岸裕孝教授（宮崎大学地域資源創成学部）

「九州廃校学会」は本日、私と宮崎大学の熊野稔教授、九州工業大学の吉武哲信教授の発起人３人で設立を宣言します。文部科学省によると、全国では 6000 校近くの施設が廃校として現存していますが、うち約 20％は未活用で、1260 校の活用方法が決まっていません。

九州廃校学会の目的は、廃校の活用について学術的な視点から課題解決に向けたアプローチに取り組むことです。学会員は、経済地理、建築、都市計画、ツーリズム、企業誘致、公共マネジメント、労働経済、ベンチャービジネスなど、それぞれの専門分野の見地に立って、文系や理系を超えた異分野が融合する形で、研究者のネットワークを形成しながら研究を進めていきます。

さらに、廃校活用の現場の方々と大学の交流を図り、実践的な課題解決の提言に取り組み、社会実装を目指していきます。その中では、地域で出会った人と研究者が一緒に問題を解決する「アクションリサーチ」の手法を実践していきます。

私自身も宮崎県内で「あそこの廃校使ったらいいんじゃないか」と思うことがあります。地域の皆さんから「何とかならんのか」とも言われ、廃校への期待は高いと感じていますし、宮崎大の地域資源創成学部では今年、「廃校活用研究会」を立ち上げました。このような流れの中、学会では地域資源としての廃校の研究を加速化していきます。

第１回の九州廃校サミットには、本校のゼミ生が参加し、いろんな活用の現状を知ることができて「こうやって地域が元気になっていくんだ」と感じたそうです。廃校は若い人たちが未来をつくる拠点になり、何が生まれていくのかワクワクするものです。

一方、学校は地域の方々が抱く思い、文化が伝わってくる場所です。地域によっては、子どもたちよりも、保護者やおじいちゃん、おばあちゃんが多いような運動会が開かれたりもします。その場がなくなると、地域社会の元気がなくなる一因になります。学校は、中心的な役割を果たす場であり、住民にとって学びの記憶の場であり、災害時には避難の場にもなるような特別な場所なんです。われわれは「学」の立場から、客観的に、かつ学術的に廃校活用の課題解決を目指したいと考えています。

廃校の維持には、費用や地域との合意形成、そして誰が活用するのかなど課題があります。行政がそのまま運営するのがいいのでしょうが、どうしてもお金の問題が残ります。そこで、これからの利活用には、「稼ぐ」という視点が重要です。さらに、多くの人がそこで交流する仕掛けが必要です。そのノウハウはどこにあるか。やはり民間です。これから、産官学が連携し、最先端の取り組みを皆さんとつくっていきたいです。

廃校利活用について語る根岸教授

# 廃校を拠点化、ネットワーク化 新たな段階へ

福岡地域戦略推進協議会（FDC） 事務局長 石丸修平

## 示唆得た初回サミット

九州廃校サミットを立ち上げた一つのきっかけは、廃校の活用には「初期投資が安い」「既存施設なのでハードルが低い」などのメリットが挙げられる一方、これが本当なのかという視点でした。実際、いざ廃校を運営しようとすると、どうしてもお金がかかってきてしまうとか、事業をやろうとしたけれど規制に引っかかってしまうとか、いろいろと問題が発生しています。

そして、4 月に開いた第 1 回の九州廃校サミットでは、皆さんでこれらの課題についてシェアし、解決する方策を考えるため、いろんな示唆のあるナレッジを共有できたと思います。サミット自体も注目され、実際にいろんなメディアに取り上げられました。

## 廃校の拠点化の重要性

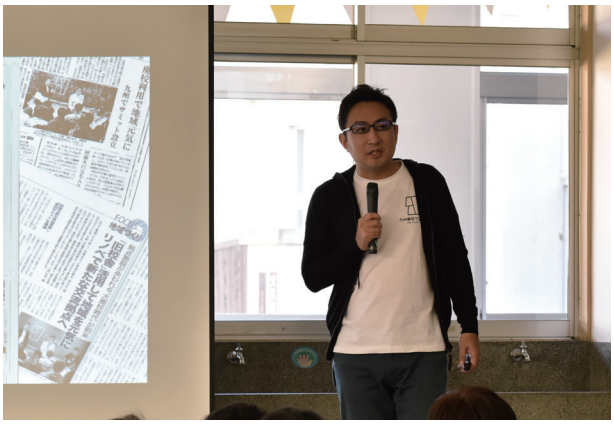
さらに、サミットは社会課題の解決の観点から、廃校の拠点化をしっかりやっていけないかと考えています。内閣府は「小さな拠点」として、ある程度集落に居住を誘導しながら、そこに必要な機能を拠点として位置づけることで、地域の最低限のコミュニティーを維持できないかと考えています。

そして、地域コミュニティーをどう維持するかという話をするときに、問題は廃校だけではありません。その地域にどういう機能を配置するのか、それがどのように作用するのかなどについて、併せて研究をしていく必要があります。廃校を地域のコンテンツの中心にしていくというのが一つの方向性として考えられ、これは学会でも研究していただきたいです。

基調講演の様子

## 補完し合うサミットと学会

廃校サミットと廃校学会は対になり、補完する関係でありたいです。サミットは一貫して事業化を促し、社会実装に取り組むプラットフォームです。そこでいろんな課題が出ますが、そこに対して学会が研究した上でソリューションを出していただけると、サミットの事業者にとってはたいへんメリットがあると思います。学会にとっては、課題解決のための政策提言につながるかもしれません。一方で、運営ノウハウや研究成果をサミット側にも提供していただき、廃校運営における相談などに専門的、法的な視点でアウトプットをいただきたいです。



基調講演を行う石丸

廃校を活用しようとしている人たちにとっての情報はまだまだ乏しかったり、ノウハウの共有がなかったり、既存の支援政策が分かりづらかったりします。さらに、活用へのプロセスがよく分かりません。事例がたくさんあるのはいいのですが、それがどうなったのか、うまくいったのか、うまくいかなかったのであればなぜなのか、そこの共有って今は全くないんです。廃校の活用の 3 割は失敗して辞めていたりしますが、そういったノウハウは表に出てきていません。それらをシェアし、適切な政策の立案につなげていくような取り組みが重要だと思います。

## 「宿場町構想」視野に

サミットを通じてできたつながりを活用し、九州の廃校のネットワークを構築できないかと考えています。九州にはさまざまなコンテンツを持つ廃校活用施設があります。ツーリズム一つとっても、互いに送客したり、廃校が全体で連携してプロモーションし、地域活性化につながる取り組みをシェアできたりします。拡大するインバウンドに好評な体験プログラムを各地で提供したり、宿泊場所の不足を補ったりと、目的地として魅力を高めることができると思います。

ネットワーク化は昔の「宿場町」に似ています。かつて宿場は回遊の拠点であり、都市と都市をつなぐ機能を持ち、栄えてきました。「宿場町構想」として廃校をつなぐことで、互いに送客したり、新しいチャレンジができたりすると思います。

## 事例 1　山口油屋福太郎の添田町工場（旧田川商業高校）樋口元信氏

### 名物めんべい生産伸び 雇用も創出

創業から 110 年を迎える辛子明太子のメーカーで、廃校を活用した工場では辛子明太子を練り込んだせんべい「めんべい」を生産しています。なぜ廃校を利用しているかというと、めんべいの原料となるジャガイモの確保が天候不順で難しくなることがあり、安定した仕入れのため、生産地の北海道小清水町の廃校に工場を構えたのが始まりです。

1 年後には、めんべいの増産を目的に、添田町の廃校に工場を設けました。既存の福岡の工場は英彦山にありますが、国定公園に指定されているため工場の増床は難しかったのです。一方、福岡に工場があれば、新商品の開発のスピードを上げることができるという期待があり、廃校の活用を決めました。北海道でもそうでしたが、雇用を生み出すことにもつながり、地方創生の起点となるべく、挑戦が始まりました。

このような流れの中、市場拡大や商品開発に取り組んだ結果、売上は順調に伸びました。工場の増産体制の恩恵だと考えています。国土交通省や経済産業省など国から注目される存在にもなりました。2016 年には女子ソフトボール部を創設し、発足 3 年目で全国大会に出場するまでになり、地域への貢献も増していると考えています。

**樋口元信氏**
**株式会社山口油屋福太郎常務取締財務部**

九州大学農学研究院博士課程（農学博士）・九州大学ビジネススクール（MBA）を修了。株式会社山口油屋福太郎にて財務部担当。「めんべい」のネーミングを発案した。「研究・イノベーション学会」にて、北海道小清水町と福岡県添田町の廃校を食品工場として利用するビジネスモデルを発表する。

## 事例 2　長崎県南島原市の廃校活用　酒井雅広氏

### 防災、給食センター、芸術…、活用事例多彩に

南島原市の廃校利活用の全体像についてお話しいたします。長崎県の南東部に島原半島があり、南島原、雲仙、島原の 3 市で構成しています。もともと、17 市町あったのですが、平成の大合併で 3 市になりました。南島原は旧 8 町が合併して誕生しました。人口は 4 万 6500 人程度、高齢化率は 37%を超えています。島原手延べそうめんが有名で、最近は 7 月に世界文化遺産に登録された、島原・天草一揆の終焉の地「原城跡」があります。

廃校にいたる背景は、急速な人口減少です。平成 18 年の時点では、人口が 5 万 6 千人いました。中でも児童数は、平成 20 年度の 2927 人から 10 年間で 2187 人となり、25%も減りました。これに対応するための実行計画を策定し、小学校の数を 31 校から 13 校、複式学級の数を 29 学級から 2 学級まで減らすことになりました。

廃校は 12 校の活用事例があります。大規模災害に対応するための防災備蓄倉庫、給食センターの統合先、地域商社の拠点などとして使われています。9 月にオープンしたばかりの芸術・文化関連施設もあります。芸術家を招いて作品制作に取り組んでいただき、地域との交流も進めてもらう施設です。特に南島原は日本で初めて銅板技術がもたらされるなど、芸術・文化の背景がある地域です。

**酒井雅広氏**
**南島原市企画振興部企画振興課 主査**

2007 年入庁。現所属（企画振興課）は 5 年目で 2017 年まで「ふるさと納税」を担当。また、2008 年に廃線となった島原鉄道南線跡地（約 32 k m）の譲渡（受納）にも携わった。担務変更により 2018 年から廃校利活用を担当。

## 事例 3　南島原食堂（旧長野小学校塔ノ坂分校）高橋和毅氏

### 地域に溶け込み、郷土料理を提供

食堂がある廃校は市内の中でも山の上にあります。近くに有名な雲仙・普賢岳や雲仙温泉などがあり、平家の落人伝説があるくらいお客さんが来るのが不思議なくらいの場所です。やっている私が言うのもなんですが。ただ、廃校の活用は楽ではないです。でも楽しいです。廃校活用には喜怒哀楽があります。

一番大変だったのは、地域の人たちとの関わり合いです。寄合や草刈りが多く、これが本当に大変でした。当初は生活するためでもありましたが、自然体験をできる学校を開きました。でも最初は本当に村八分状態でした。でもイベントをすると少しずつ人が増えていって、バーベキューをしたり、五右衛門風呂に入ったりしました。怒られることもあり、集落を飛び出そうと考えたこともありました。ただ、本当にこちらのことを考えて怒ってくれていると分かり、ここに居続けたいと思いました。

食堂では、「お帰りそうめんセット」などを提供しています。どこにもない胸を張れるメニューです。ほかにも南島原の郷土料理も出していて、若い人にも好評です。ただ、山中ということもあり、冬はお客さんが減ります。それでも、ここの卒業生の若者からおばあちゃんまで、一生懸命に働く従業員がいてくれます。場所のせいにせず、自分で努力を積み重ねていきたいと思います。

**高橋和毅氏**
**とんさか森の学校 楽校長**

約 9 年前に福岡市より長崎県南島原市塔ノ坂集落に引っ越し。旧南島原市立長野小学校塔ノ坂分校跡地で「とんさか森の楽校」を開校。土日に、色々な「授業」を地元、県内外、国内外を問わず、色々な人々と共に企画、提供。集落のお母さん達と『南島原食堂』をオープン。週末は「とんさか森の楽校」で自然体験カリキュラムを提供し、平日は有家町で「ありえ麓の楽校」を開校、主に英会話とピアノの楽しさを伝える教室を運営している。

## 事例 4　田舎の体験交流館さんがうら（旧一勝地第二小学校）小川聡氏

### 住民が運営の主役 豊富な自然体験

さんがうらが立地する熊本県球磨村は、鹿児島県との県境にあります。88%が山林という山岳地帯にある村です。高齢化率は 42.4%に上ります。人口は、私が子どもだったころは 8000 人くらいいましたが、今は 4000 人を切っています。一方で、美しい「松谷棚田」も広がる自然豊かな地域です。

交流館は平成 23 年に開設し、「さんがうら運営委員会」が運営に当たっています。委員会は、地域代表の区長や班長、女性代表、球磨村棚田保存会代表、消防団、公民館、行政などの 31 人で構成しています。会合を年に 6、7 回開き、住民主導のイベントの企画や会議にも取り組んでいます。

この地域では交流館を拠点とし、田植えや稲刈りといった農林業体験を楽しめます。みそ作りやジャム作り、そば打ちなどの食の加工体験のほか、森林浴や川遊び、星空観察などを堪能できる野外活動体験などを目的にお客さんが訪れてくれます。

これらは当初、住民の方々に「何かありませんか」と聞き回り、地域の人たちと一緒になってつくってきたプログラムです。農林業体験のうち、地元の伝統的な宝である棚田での活動は、遊休農地の再生にもつながっています。

**小川聡氏**
**田舎の体験交流館さんがうら施設長**

昭和 49 年球磨村生まれ。「さんがうら」では、農林業体験交流プログラムの企画・運営、自然体験活動をはじめ、地域資源の発掘・記録及び、それらを活用した地域活性化事業、都市農村交流活動等の事業に携わっている。球磨村観光案内人の会、新規就農者で結成した球磨村農愉会でも活動中。

## 事例 5　きくちふるさと水源交流館（旧菊池東中学校）松﨑勝己氏

### 学校への愛着深く 水資源活用も奏功

熊本県菊池市の水源地区にある木造の廃校舎で活動しています。校舎の活用に当たっては、一部を改修し、剣道場を宿泊棟にし、音楽室を食堂にしたりしました。

この地域では、昭和 25 年の校舎建設時のエピソードが廃校活用の原動力になっています。当時、地域の子どもたちが川から石を運んできて、校舎の基礎の一部を造ったといいます。校舎への愛着が深いのです。廃校になった後もこの校舎を残すため、地域では NPO 法人が設立されました。所有は市ですが、NPO 法人が指定管理者として運営しています。

活動としてうまくいっているのは、農業用水路をカヤックで下る夏限定のネイチャーアトラクション「イデベンチャー」です。4 年前に始めましたが、今では参加者が 2000 人を超え、収益事業として大きくなりつつあります。

他にも、「水源食プロジェクト」では高齢化が進むこの地域において、高齢者の見守りを兼ねた宅配弁当サービスを実施しています。弁当は加工部が手作りしています。廃校となった水源小学校跡地では、美少年が日本酒の醸造を始めました。こちらから美少年に声を掛け、地元の米の集約に取り組み、「美少年酒造原料米出荷者組合」を設立しました。本年度も 400 俵の出荷を契約済みで、好調に活動しています。

**松﨑勝己氏**
**NPO 法人きらり水源村 企画運営・広報担当**

宮崎県生まれ。既婚 2 児の父。あだ名：水源のくまさん。高校時代に映画づくりに出会い、大学でも映画三昧。TV カメラマンやディレクターとして 20 年余りマスコミの世界で働く。田舎暮らしを夢見て 8 年前から現職。現在、100 年を超える古民家を購入し DIY リフォームしながら家族で楽しんでいる。

## 事例 6　たかき清流館（旧佐田小学校）山邊悦弘氏

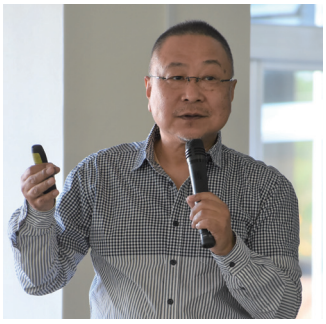
### 相次ぐ豪雨災害 イベントは「全員参加型」

福岡県朝倉市で、1874（明治 7）年に創立された歴史ある学校を活用しています。ここは宿泊もできますし、自然の中でバーベキューや野外活動を楽しんだりもできます。同じ福岡県内と思えないでしょうが、冬には雪が積もる景色が広がるような山間地です。有名なのはホタル、そして梨があります。

水源だけに、よく雨が降ります。清流館は 3 回、被災しました。1 回目の豪雨災害ではキャンセルが続出しました。昨年の豪雨災害では道路の崩壊が発生し、ここは孤立しました。そのような場所であるため、廃校の運営主体の不足に悩まされてきた経緯もあります。

人がいない中で運営をどうするか。ボランティアを活用して色々とやってもらいました。ただ災害も相次ぎ、こうなったらお客さんにもボランティアをしてもらおうと、子どもたちにはペンキを塗ってもらったり、できる人にはピアノを調律してもらったり、イベントでも「歌いたい」と言う人が来たので無料で歌ってもらったりしました。ここでのコンテンツは「全員参加型」で、われわれが手を掛けないようにしています。

今からの再生のキーワードですが、ここの歴史を徹底的に調べていて、何かコンテンツに役立つものがないかと考えています。ここの佐田地区は昔から精神文化が高い所なので、もうちょっとメンタル面で訴求できるコンテンツができたらどうかと思っています。



**山邊悦弘氏**
**あさくら里山プロジェクト代表**（朝倉市たかき清流館指定管理者）
**NPO 法人チャルカ・ジャパン　理事長**
**アマヤ株式会社　代表取締役**

不動産開発会社の関連会社再建終了を機に、自らの会社を設立（現アマヤ株式会社）、バブル崩壊後の企業や不動産オーナーの再建に携わる。併行してヘルスケア事業を手掛け、医療機関との連携やコンサル事業も展開してきた。インドでの貧困層の子どもや老人の支援活動もしており、熊本地震から本格的に被災地支援をはじめ、平成 29 年北部九州豪雨災害で NPO 法人チャルカ・ジャパンとして朝倉市の災害復旧・復興支援活動に参加。たかき清流館の管理を被災者らと任意団体を設立し受託した。

特別 セッション　**Bike is Life**

## 「廃校をつなぎ、旅をする」～廃校 × サイクルツーリズムの可能性～

福岡県朝倉市をサイクルツーリズムの拠点にしたいと思い、朝倉を発着点とする九州一周の旅を実際に行っています。大人になってこのような旅をするのはなかなかありません。九州の良さも感じることができる旅でした。

一方、自転車の旅はハードルが高いです。まずは道の路面が悪かったり、側道が狭かったりして走りにくいです。そして、休むところが限られています。汗まみれ泥まみれで自転車もあります。そんな状態ではレストランやカフェに気軽に入れません。結果、コンビニに寄って補給をします。泊まるところにも困ります。高価な自転車を安心して預けられる鍵付きの倉庫があるといいですが、そういうところは多くありません。ユースホステルでは玄関を借りられましたが、人が増えると難しくなりそうです。

さらに、荷物を極力少なくするため、洗濯が必要になりますが、できる場所も少なかったです。キャンプ場に泊まるのですが、汗をかきながら遠くのコインランドリーに行き、汗をかきながら帰ってくるという状況です。あとはトラブル対応に不安もありました。予備のチューブを２本持っていますが、３回目のパンクには対応できません。

現在、福岡ツーリズム推進協議会の運営に携わっています。県や市町村、サイクリスト、自転車関連の事業者が集まり、使いやすいサイクルツーリズムを提案したいとスタートした団体です。ただ、やはりサイクルツーリズムはまだよく理解されていません。日本ではしまなみ海道の圧倒的で非日常的なロケーションが有名です。しかし、そのようなロケーションはどこにでもあるものではありません。

そこでわれわれは、サイクルツーリズムの環境整備とともに、サイクルカルチャーの育成に力を入れています。福岡県全体で自転車に理解がある人を増やしていこう、そしてサイクリストの交流を生みだし、関係性を深め、この人に会いたいからまた来ようという関係人口を増やしていくのが狙いです。

そのために交流の拠点を増やし、ネットワーク化しようと取り組んでいます。今年の春から始めました。それらを線で結んで、このルートを福岡県の広域ルートとして３月に発表できるように準備しています。

このルートは続きがあります。隣県との広域を想定したルート設定になっているからです。いずれはこのようなルートを九州全体に広げたいと考えています。

多くのサイクリストにこのルートを楽しんでもらうのには拠点が重要です。広い敷地があり、食事ができ、自転車用品の販売が可能で、宿泊ができる、そして地域の交流の場である。それは廃校です。２カ月前にこのいいかね Palette に来た時、最高の拠点だと思いました。

廃校と廃校の間をつないで、九州一周ができればこんなに楽しいことはありません。これをぜひ、全国の１号案件にできればいいと思っています。

**山田大五朗氏**
**株式会社 Bike is Life 代表取締役**
1978 年 10 月生れ福岡県出身。17 歳の時に自転車競技と出会いのめり込む。21 歳でフランスへ渡り、帰国後 25 歳でプロとなる。29 歳の時にワールドカップに参戦し、同競技でこの年の日本代表となる。以降 3 年連続で世界選手権に出場。32 歳の時に 24 時間耐久レースに挑戦し優勝。このレースを最後に引退。その後自転車関連企業で商品の企画や製造を経験。2018 年 4 月に株式会社 Bike is Life を設立。自転車の製造販売、サイクルツーリズム事業、サイクリング拠点の企画、サイクルイベントの主催などを行う。

特別 セッション　**クラウドリアルティ**

## 不動産特化型クラウドファンディングによる遊休不動産の利活用について

社名の通りクラウドファンディングを行っていますが、あくまで一つの手段として考えています。会社を立ち上げる時からの課題感として、評価されるべきものが評価されていないと感じています。例えば、金融機関などには評価されていないが、活用すればうまくいく物件があります。そこの資金調達を円滑に進められるようにしたいと思っています。そして、評価できる人たちが賛同して、その事業を支援する、そこに提供できればいいと考えています。

資金事業者にはいろんな人がいて、自分の持っている物件で民泊をしたい、大企業の人でお金はあるがＣＳＩ的に地域貢献をしたい、とさまざまです。そして出資者には、事業支援をしたい、自分が賛同することに参加したい、加わりたい、お金の運用をしたい、という人がいます。

そういったビジョンの下、われわれが足元で展開しているのは、地域課題解決型のまちづくりプラットフォームと呼ばれています。サービスとしては不動産の証券化です。この事業の目的は、基本的には地域の課題を解決する持続的な事業を創出することです。それに必要なのは人と場所とお金です。中でもその事業を行いたいと思っている人が一番重要です。

われわれはこの人と場所とお金を結びつける役割を担えると思っています。例えば、民間の人が学校や公民館の活用を考えている場合や、自治体がサウンディングしているように、廃校という物件で何をしようかと考えている場合など、必要な条件が全てがそろっていることはあまりありません。そこで足りないピースを埋めていくのがわれわれのサービスです。昨年には、数字上では価値のなかった京都の古民家を宿泊場所として再生する事業者を支援し、3 週間で 7200 万円の資金を調達しました。

廃校に関しても、クラウドファンディングを通して活用されれば、普段足を運ばない人が訪れたりとか、関係人口、交流人口の拡大に期待できると思います。

**塗矢眞介氏**
**株式会社クラウドリアルティ取締役 兼 COO**
2017 年 3 月に創業メンバーとして経営に参画。学生時代に開発経済を学び、卒業後は米系投資銀行や米系投資ファンドにて投資専門家としてのキャリアを積む。現在は地域の事業者から官公庁、自治体や民間企業と幅広い関係者に対してまちづくりにおけるノウハウの提供や事業計画の策定等の経営支援、資金調達の助言を行う。

# 会場とのセッション

**九州廃校サミットの村岡浩司会長がモデレーターを務めた、登壇者や参加者とのセッションです。**

「廃校サイコー！」と皆で拳を上げ、会場が最高潮に達した

［モデレーター］

**村岡浩司**
MUKASA-HUB 代表（宮崎県）

地産ミックス「九州パンケーキ」発売元、一平グループ代表取締役。元祖レタス巻「一平寿し」二代目店主。MUKASA-HUB プロジェクトリーダー。

**HUKASA-HUB**

移転廃校となった校舎（旧宮崎市立穆佐（むかさ）小学校）をリノベーションし、ベンチャーや起業家が集まる地域ビジネスのコミュニティとして蘇えらせた活動拠点。

**村岡**　南島原食堂の目標は客数や売り上げ、もしくはプロモーションですか？

**南島原市役所の酒井さん**　プロモーション事業でやってきたところもあります。（隣接する）雲仙市の旅館街が近く、観光客が流れてくるということを見込んでいます。そこから動線として市内に広げていくという考えです。市内には世界遺産やイルカウォッチングなど観光資源がありますので、食堂はそれらへの入り口として作られた経過があります。

**村岡**　田舎の体験交流館さんがうらは委員会で運営されている。施設に対して要求がどんどん高まるのでは。

**小川さん**　運営委員会の区長、班長は２年くらいで交代します。実は温度差があって、物事が決まりにくいという苦労はあります。

**村岡**　きくちふるさと交流館には累計 30 万人が集まっているようです。アイデアはどうやって作り出していますか。

**松崎さん**　イベントを仕掛けないと人が来ないというシンプルな現状で、イベントは楽しい、絵になる、唯一無二である、そしてストーリーがあることなどを大切にして、できるだけ作っていこうと思っています。私ももともとメディアの人間で、テレビが放っておかない企画を作るという根本的な考え方があります。
　また、交流館は地域住民の声を集約しないといけない小さな市役所のような存在になっています。例えば、農業の問題や、独居の高齢者の食事をどうするかなど、こういった内向きの事業と、交流を目的に外から人を呼び込む事業と両方をやっている状況ですね。

**村岡**　基調講演で九州全体をネットワーク化する「宿場町構想」が出ました。Bike is Life の視点と重なります。実際に九州を回って、どんなところが大変でしたか。

**山田さん**　初めて九州一周したパートナーにとってはまず、気候が大変でした。そして宿泊する場所が少ないこと。あとは濡れた体で動いて寒かったこと、洗濯や食事などが近くになく、個別に探さなくてはいけないのも大変でした。良かったところもあって、たどり着く景色の美しさ、太陽のまぶしさ、ゴールで迎えに来てくれた仲間との感動がありました。
　九州にはサイクリストになってみないと分からない感動が詰まっています。６月には麦畑で風が吹くとざわざわと聞こえますし、潮の香りで海が近いことを感じます。山を登りながら木の揺れる音も聞こえます。人気漫画の影響でサイクリストは増えましたが、停滞も感じています。おそらく、楽しみ方が分からない、一緒に楽しむ仲間がいないからだと思います。廃校のネットワーク化という視点で考えると、拠点にサイクルスタンドがあると受け入れられている雰囲気が出ます。あとは体を拭く水道です。
　もう一歩踏み込んでもらえるとありがたいのは、チューブ、工具、空気入れで、そろっていると安心感は倍増します。あとは、女性サイクリストのウエアの構造上、衣服を掛けられるフックがある清潔なトイレがあれば喜ばれると思います。

**会場からAさん**　これからのサミットに提案します。廃校の利活用の成功例だけでなく、失敗例も知りたいし、行政側からはどんな地域にどんな物件があるか、地域の人たちが廃校についてどんなことに困っているかも知りたい。これらをディスカッションする場があるといいです。

**会場からBさん**　地元の子どもたちが参加して廃校の活用がうまくいった事例はありますか。

**たかき清流館 山邊さん**　もともとソフトボールや子ども会の合宿が多く、普通のお客さんとして泊めていましたが、その人たちにボランティアをしてもらっています。今までにないコンテンツを体験してもらったりしています。被災地ボランティアを経験した学生を集めて情報を共有する防災キャンプみたいなのを開いています。

**会場の男性**　廃校を活用することで、地域の人口が増えたケースはありますか。

**会場の男性**　佐賀県嬉野市で廃校を運営しています。その運営者が移住してきました。そして嬉野の方と結婚しました。そんな感じで、運営する側が地域に魅力を感じて来ることはあると思います。

**村岡**　関係人口という視点もありますよね。何かがきっかけとなってその街を訪れて、地域のファンになる。その人がスポークスマンになって、またファンを増やしていく。そういう効果はあると思います。今日のここの場所もそうですし、私の MUKASA-HUB もそうだと思います。ただ、外縁の普及効果まではまだいっていないですね。

**会場の男性**　九州廃校サミットのブランディングができてきている。そこで、利活用されている廃校で「九州廃校マーケット」を開くのはどうでしょうか。九州の廃校には飲食をやっていたり、加工品を扱っているケースが多いですし、地域住民を巻き込んでコミュニティーをつくれたらいいと思います。

# 全体のまとめ

サミット発起人の３人が第２回を総括しました。

**石丸**　廃校をネットワーク化する話をしました。私たちが 10 年後、20 年後にその地域がどうなっているのかを考える時、人口減少の中では、需要やリソース、資金や人などを持ってくるためのネットワーク、装置が必要です。廃校をつなぐネットワークは、廃校全体のプレゼンスを上げていく、皆で助け合う、といった意味がありますが、そこにもう一つ、そういった装置としての役割がこれから、肝になっていくと思います。

**大井**　「宿場町構想」をここで採択したいです。廃校の事業者として集客が大きな課題になっています。そう意味で有機的なつながりは非常におもしろいと思っています。例えば高校野球で、関西の人は自分の府県のチームが負けたら終わり。でも九州では他県のチームも応援する。そういうつながりがある九州だからこそできると思います。（会場からの拍手で採択決定）

**村岡**　右肩上がりで人口が増え、経済が発展していた時代は、その中でわれわれの地域をどう豊かにしていくか、「one for all」の時代でした。右肩下がりの今の時代では、全体最適を考えなければいけません。「all for one」の時代になっています。九州で県単位でも自治体単位でも落ちこぼれを出してはいけません。そんな中で、われわれは廃校という一つのキーワードの元に、いろんな課題に取り組んでいきたいと考えています。

## Special Thanks

九州廃校サミットの設立を支援していただいた企業様です。本当にありがとうございます！

VERTEX PARTNERS

九州廃校サミット
ONE KYUSHU

九州廃校サミット事務局
福岡市中央区天神 1-10-1 市役所北別館 6 階 福岡地域戦略推進協議会内
092-733-5682
info@kyushu-haiko-summit.com

2019.10